

# Application for Participation

## Associated Schools Project (ASP) for Promoting International Education

### Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

#### 1. Description of the Project (プロジェクトの概説)

本校は平成22年度から「環境への意識を高め、地域への思いを深める子どもの育成～小中一貫環境カリキュラムを柱とする教育活動の工夫を通して～」というテーマの下、隣接している小中学校と連携して環境教育に取り組んでいる。

子どもが社会の当事者として「地域」にかかわっていく能力を育むことを環境教育の目標と考え、「環境」を子どもが暮らしている地域ととらえた。地域の「もの・こと・ひと」こそ、時代を担う子どもが最も大切にしてほしい「環境」だからである。

環境教育は、系統的且つ全教科・領域で横断的に取り組む必要があると考え、その柱となる「環境カリキュラム（ESDカレンダー）」を作成し研究を進めてきている。第1学年では野菜作り、第2学年では校区たんけん、第3学年は農家の見学と野菜作り、第4学年は校区の川や干潟の見学や体験活動、第5学年は緑のカーテン作り、第6学年はエコ活動を行っている。生活科や総合的な学習の時間を中心としたこれらの活動を軸に、各教科・領域等を環境という視点で整理し直し、カリキュラム化したものが「環境カリキュラム」であり、段階をふんで環境にかかわる力を育てていくための手だてとしている。また、環境カリキュラムにある教科単元ごとにその内容を示した「カリキュラムナビ」も作成し、学習の展開例を示すとともに他学年との学習内容のつながりも分かるようにした。さらに、前述にあるように近隣の小中学校が行っている環境教育とも連携し、交流活動を行っている。530（ゴミゼロ）運動、3校環境サミット、観鳥会など、行事や子ども生徒会活動を年間に位置づけ、教育活動とのつながりを図っている。

#### 2. Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

本校の環境教育における取り組みの目的は以下の通りである。

学習段階で育んでいく姿と各学年で身につける力

段 階	目 的	子どもが身につける力
<低学年> 地域のよさを理解 していく時期	環境に対する豊かな感性を育む	「感受性豊かに受けとめる力」 野菜作りやたんけん活動をとおして、地域の「もの・こと・ひと」とふれあい、愛着をもつ。
<中・高学年> よりよい地域となるように、できることを考え自分たちで取り組んでいく時期	環境に対する見方や考え方を身につけていく姿	「思いを表現していく力」 野菜作り見学や川・干潟での体験から感じたものを、言葉や絵で表現し、自分の考えを伝える。 「協力して解決していく力」 緑のカーテン作りや節電シートなどのエコ活動に仲間と一緒にになって取り組み、問題解決に向けて活動する。





#### 4. Type of materials to be used (使用する教材)

学年	教具・教材・書籍	ウェブサイト
1	農機具, 農業用マルチ, 支柱, 軍手, 肥料, 農業用ネット ・そだててあそぼう『キュウリの絵本』『ミニトマトの絵本』武田英之編 農山漁村文化協会 2010 ・学校で育てる植物のずかん 文・おくやまひさしポプラ社 2009	Vegetables Beginners Guide <a href="http://kateisaiennkotu.com/">http://kateisaiennkotu.com/</a>
2	たんけんバッグ, デジタルカメラ ・『たのしい野菜づくり育てて食べよう』監修 高橋久光 小峰書店 2008	
3	農機具, 軍手, 肥料, デジタルカメラ, プランター, CD, 噴霧器	落ち葉堆肥の作り方 <a href="http://www.kyoto-sports.or.jp/eco/detail/pdf/taihi.pdf">www.kyoto-sports.or.jp/eco/detail/pdf/taihi.pdf</a> 農水省キッズサイト <a href="http://www.maff.go.jp/j/kids/index.html">http://www.maff.go.jp/j/kids/index.html</a> J A 全中 <a href="http://www.zenchu-ja.or.jp/">http://www.zenchu-ja.or.jp/</a>
4	エアープンプ, 水槽, 採集網, デジタルカメラ, バケツ, 水質検査キット (パックテスト)	静岡県浜松市立豊西小学校 <a href="http://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/toyonishi-e/">http://www.city.hamamatsu-szo.ed.jp/toyonishi-e/</a> 愛知県公式サイト <a href="http://www.pref.aichi.jp/">http://www.pref.aichi.jp/</a>
5	支柱, 農業用ネット, 軍手, 肥料, 鍋, 包丁	ゴーヤ茶の作り方 クックパッド <a href="http://cookpad.com/recipe/1505315">http://cookpad.com/recipe/1505315</a> へちまたわしの作り方 DIY GARDEN <a href="http://www.diy-garden.net/garden/sponge-cucumber/how-to-make-sponge">http://www.diy-garden.net/garden/sponge-cucumber/how-to-make-sponge</a>
6	農業用ネット, 軍手, 肥料, 肥料袋, バケツ 新聞	緑のカーテンに適した植物 <a href="http://www.jikooyooen.com/index.html">http://www.jikooyooen.com/index.html</a>
特別支援学級	軍手, 支柱, 肥料, 移植ごて, デジタルカメラ, ・『たのしい野菜づくり育てて食べよう』監修 高橋久光 小峰書店 2008	農業屋.com <a href="http://www.nogyoya.com/html/user_data/yasai/yasai.php">http://www.nogyoya.com/html/user_data/yasai/yasai.php</a>

#### 5. Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

##### (1) 評価の概要：材料及び方法

ア 低学年の活動では、野菜作りや校区たんけん等で地域のもの・こと・ひとと“つながる”体験活動を行うことをとおして自然に親しみ、環境に対する豊かな感性を育てていくことをねらいとしている。野菜の観察日記、たんけんのふり返しカード、活動後の感想文、新聞作りなどを評価材料として、それぞれ次のような観点から評価する。

① 自然とふれ合う体験や栽培活動から自然と自分たちの生活との「つながり」についての理解

イ 中学年の活動では、堆肥や野菜作り、川や干潟での体験活動や調査活動で地域のもの・こと・ひとと“つながる”ことをとおして自然の大切さに気づき、環境に対する豊かな感性を育てていくことをねらいとしている。低学年と同様に、川や干潟での調べ学習、観察日記、活動のふり返しカードや感想文、新聞作りなどを評価材料として、次のような観点から評価する。

① 体験や調査活動から環境問題に気づき、自然と人間との「つながり」についての理解

② 体験から感じたものを、自分の言葉や絵で表現し、考えを伝えることができる。

ウ 高学年の活動では、緑のカーテン栽培や節電シート作り等の省エネ活動で地域のもの・こと・ひとと“つながる”ことをとおして自然を守るためにできることを考え、環境に対する見方や考え方を身につけていくことをねらいとしている。そのために、省エネについての調べ学習や取り組みの成果を新聞で広報したりポスターセッションで知らせたりする活動を計画している。ここでは、調べ学習のワークシートや発表内容、新聞を評価材料とし、それぞれ次のような観点から評価する。

① 環境問題解決のための活動の方法を仲間と共に考えることができる。

② 調べ学習や取り組みの成果をもとに、自分の考えをまとめ、伝えることができる。

## (2) 評価の時期及び活用

子どもの活動状況評価及び自己評価は、教師が毎活動時間ごとに行い、観点による評価は各活動の終了時に実施する。

*On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.*

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

24/1/2014

Date (日付)

Principal's name (校長名 (※直筆))

Position, (役職) Principal

Institution's name (学校名)

Oitsu Elementary School